

SHONAN MAIL

2025.AUG/VOL.216



医療法人徳洲会
湘南鎌倉総合病院

〒247-8533
神奈川県鎌倉市岡本 1370-1
TEL: 0467-46-1717 (代表)
FAX: 0467-45-0190



SHONAN MAILのご意見・ご感想はこちら



SHONAN MAIL 8月号 2025年7月28日 発行 広報室

今月の表紙

人物 副院長・消化器病センター主任部長 小泉 一也医師、窪田 純医師

色 白藤色(しろふじいろ)

白藤色は、藤の花の色を淡くやさしくしたような、ごく薄い紫色です。

藤は初夏に咲くことから、白藤色も涼やかで上品な夏の色として古くから親しまれています。

まちがいさがしの答え

①「氷」の文字 ②かき氷のシロップ ③朝顔のつる ④星の形 ⑤花火の黄色い点の数



消化器病センター



365日、 すべての消化器疾患を診る。

消化器病センターは“専門と救急”のハイブリッドチームです。

消化管領域

食道・胃・大腸などの病気を、内視鏡（カメラ）を使って診断・治療します。がんやポリープ、出血などに幅広く対応し、早期発見や体への負担が少ない治療に力を入れています。検査や治療は眠っている間に行うことも可能です。

肝臓領域

ウイルス性肝炎や脂肪肝、肝がんなどを対象に、血液検査や画像検査を使って診断・経過観察を行っています。進行した病気に対しては、薬による治療や、肝臓の中に直接働きかける専門的な治療を行うこともあります。

胆膵領域

胆石や胆管のつまり、膵炎（すいえん）や膵臓がんなど、見つけにくく治療が難しい病気に対応します。お腹の強い痛みや黄疸が出るような病気にも、カメラを使った検査や処置を行い、外科や救急と連携して治療しています。



消化管領域

年間 1 万件超の内視鏡検査が支える専門診療

主な疾患

- 胃がん
- 大腸がん
- 大腸ポリープ
- 逆流性食道炎

主な治療

- 内視鏡検査（胃カメラ・大腸カメラ）
- 内視鏡的切除（ESD/EMR）

診療実績（2024 年度）

胃カメラ（上部内視鏡検査）	14,018 件
大腸カメラ（下部内視鏡検査）	5,670 件
EMR（ポリープ切除など）	2,443 件
ESD（早期がん治療）	261 件



肝臓領域

“沈黙の臓器” 肝臓を守る専門医療

主な疾患

- 肝炎（B 型・C 型）
- 肝硬変
- 肝がん
- 脂肪肝

主な治療

- 抗ウイルス治療
- 肝がんに対する TACE、RFA

診療実績（2024 年度）

TACE（肝がん化学塞栓療法）	38 件
RFA（肝がん焼灼治療）	21 件
肝生検	32 件
EVL / EIS（静脈瘤治療）	34 件



胆膵領域

見つけにくく、治しにくい病気に“内視鏡で挑む”

主な疾患

- 膵がん
- 胆のうがん
- 胆石症
- 膵炎
- 胆管結石

主な治療

- ERCPによる内視鏡的治療（ステント、ドレナージ）
- 外科との連携による手術

診療実績（2024年度）

ERCP（胆管治療など）	651件
EUS（超音波内視鏡検査）	812件
うち EUS-FNA（組織検査）	175件
うち EUS 下瘻孔形成術	42件

医師紹介



副院長
 消化器病センター主任部長
 膵がんセンター副センター長
 こいずみ かずや
小泉 一也

- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本胆道学会指導医
- ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本膵臓学会指導医
- ・がん治療認定医

湘南鎌倉総合病院の消化器病センターは消化管・肝臓・胆道／膵臓の3つの専門部門から構成され、難治性がんをはじめとする幅広い消化器疾患に対応しています。患者さんの体にできるだけ負担をかけないやさしい医療を心がけ、内視鏡を中心とした低侵襲な診断・治療を行っています。外科・総合内科・救急科なども密に連携し、消化管出血や急性胆管炎などの緊急性の高い消化器疾患に対しても、24時間体制で急性期医療を提供しています。また、私たちは同じ病気で苦しむ方々の治療に少しでも貢献できるよう、この湘南鎌倉地域で得た知見をもとに年間30本以上の英語論文を執筆しています。これは、私たちの診療技術の正しさを証明する手段の一つでもあると考え、積極的に取り組んでいます。論文情報は当センターのホームページに随時掲載しておりますのでぜひご覧ください。とはいえ、最も大切なのは目の前の患者さんの健康のためにベストを尽くすことです。世界水準の最先端医療の提供を目指しながらも地域医療を大切に、ガイドラインに基づいた標準的治療と、個々の患者さんの状態や思いに寄り添った医療を両立してまいります。



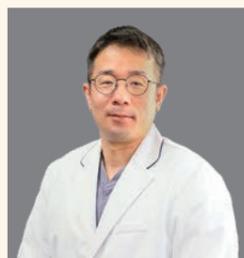
消化器病センター部長
 こばやし まさひろ
小林 正宏
 ・日本肝臓学会認定専門医・指導医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
 ・日本消化器内視鏡学会専門医
 ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 ・日本内科学会認定内科医



消化器病センター部長
 ささき あきこ
佐々木 亜希子
 ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
 ・日本消化管学会胃腸科専門医
 ・日本内科学会総合内科専門医
 ・日本内科学会認定内科医



消化器病センター部長
 ますだ さくら
増田 作栄
 ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
 ・日本膵臓学会指導医
 ・日本胆道学会指導医
 ・日本内科学会総合内科専門医



消化器病センター部長
 いちた ちかまさ
市田 親正
 ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
 ・日本消化管学会胃腸科専門医
 ・日本内科学会総合内科専門医
 ・日本内科学会認定内科医



消化器病センター医員
 まかす まきこ
眞一まごも
 ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医・指導医
 ・日本消化管学会胃腸科専門医
 ・日本内科学会総合内科専門医
 ・日本内科学会認定内科医



消化器病センター医員
 にしの たかし
西野 敬祥
 ・日本消化器内視鏡学会専門医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医
 ・日本消化管学会胃腸科専門医
 ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 ・日本専門医機構認定内科専門医



消化器病センター医員
 ながやま みきこ
長山 未来
 ・日本消化器内視鏡学会専門医
 ・日本救急医学会救急科専門医



消化器病センター医員
 きむら かれん
木村 かれん
 ・日本消化器内視鏡学会専門医
 ・日本消化器病学会認定消化器病専門医
 ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 ・日本専門医機構認定内科専門医



消化器病センター医員
 さかた じゅん
窪田 純
 ・日本専門医機構認定内科専門医



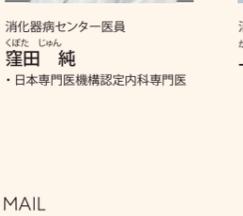
消化器病センター医員
 えのう えいこ
上石 英希



消化器病センター医員
 ほりうち てつや
服部 哲也



消化器病センター医員
 なかがし しおり
仲道 汐里



消化器病センター特任部長
 かたぎり まこと
賀古 真
 ・日本肝臓学会認定専門医・指導医
 ・日本消化器病学会指導医
 ・日本内科学会認定内科医

外来担当表

	診療時間※1	月	火	水	木	金	土
消化器	午前	佐々木	長山	隅田・服部	上石	西野・仲道	市田
	午後		—	隅田	—	西野	—
肝	午前	小林	賀古・小林	賀古	小林	賀古	非常勤医
	午後	—	—		小林・非常勤医		
胆膵	午前	増田	小泉	眞一	小泉	窪田	木村
	午後			—		—	—

- ※1 予約時間に合わせて受付機に診察券をお通しください。
- ※2 最新の情報は病院ホームページをご確認ください。
- ※3 紹介状がない場合は選定療養費 7,000 円のご負担がございます。

新規予約
専用ダイヤル

0467-84-8922

受付時間：月～金 13:00～16:30

■ご予約についての詳細はホームページでご確認ください

公開医学講座

日時	タイトル	場所	講師
8月1日(金) 14:00	耐性菌の怖さと予防知識	藤沢商工会議所(ミナパーク)505会議室	増田 作栄
8月22日(金) 13:00	膵嚢胞と膵臓がん～最近の知見と検査法について～	地球市民かながわプラザ(あーすふらざ)大会議室	小泉 一也
8月27日(水) 13:00	内視鏡でここまでできる！ ～胃がん・大腸がんで死なないために～	地球市民かながわプラザ(あーすふらざ)大会議室	市田 親正
8月29日(金) 13:00	知っておきたい！肝臓のお話	逗子文化プラザ 市民交流センター第2会議室	小林 正宏



この街で、消化器医として生きる。

— 湘南鎌倉で出会った3人の医師が語るホンネ —



窪田 純
2019年 北里大学卒

西野 敬祥
2016年 秋田大学卒

長山 未来
2016年 埼玉医科大学卒

消化器領域を選んだきっかけは？

西野 正直、消化器って最初は考えてなかったんですよ。でも内科には進みたいと思っていて、自分の性格的に「手技」がある科が合っているかなと。研修中に循環器とか呼吸器とかいろいろ回る中で、消化器病センターの雰囲気がとても良くて。手技が多いのもそうですが、がんの予防にも関わるといふ点に惹かれましたね。

窪田 全部言われちゃいました(笑)。僕も内科の中で手技ができる科に行きたいと思っていて、循環器と迷ってたんなんですけど、消化器って悪性疾患も含めて対応できるし、診療の幅が広いということが決め手になりました。

長山 私は初期研修のあと、救急で後期研修をしていたんです。最初は救急一本で行くつもりでした。でも当院の救急って診断をつけるところがメインで、治療にはあまり関われないんです。そんなときに消化器病センターで2か月間ローテーションする機会があって、自分で内視鏡を使って出血点を探るなど、治療に関わった経験がとても印象に残って。「これが自分に合っているかも」と思って、消化器病センターに入りました。

消化器病センターの雰囲気ってどうですか？

長山 とても和やかですよ。もちろん緊急時はピリッとしみじみですけど、ふだんはみんなでしっかりコミュニケーションを取りながら診療していて、相談しやすい雰囲気ですごくありがたいです。

窪田 上の先生方に相談しやすいっていうのは、働くうえで大きいですね。

西野 うん、それは本当にこのセンターの魅力だと思います。

なぜ湘南鎌倉で働き続けているのですか？

西野 初期研修のときからずっとこの病院にいます。ここでなら自分ももっと成長できる、そう確信できる環境だったんです。消化器って、手技を身につけるまでに時間がかかる診療科です。専門医を取ってから本場のスタートというか、内視鏡などの技術をしっかりと体得するには、やっぱり継続した経験が必要なんです。僕たちの代から専門医制度が変わって、消化器だけを集中して回る時間も短くなってしまったので、なおさら同じ環境で腰を据えてやっていくことの大切さを感じました。そういう意味でも、ここで働き続けることに大きな意味があると思っています。

長山 私も初期研修からこの病院ですが、やっぱり相談できる先生が多いのが大きいですね。消化器のことはもちろん、それ以外の領域でも相談できる環境が整っていて、他の診療科にいる同期の存在も働き続けている理由です。

窪田 大病院だとしても悪性疾患が中心になりがちですが、ここではコンディショニングもしっかり診ることができ、症例数も多くて教育体制も整っているので、まだまだ自分はここで成長できると感じています。

他の病院へ移ろうと思ったことは？

西野 ここが「嫌で」という理由では全くないですね。ただ、大病院に行けば研究に携われたり、博士号を取ったり、キャリアの幅が広がるという点で、選択肢として考えたことはあります。

窪田 僕もそういう意味で考えたことはあっても、「辞めたい」と思ったことはないです。

診療の中で大切にしていることは？

窪田 迷ったときは「自分が患者だったらどうされたいか」という視点を大事にしています。方針を考えたときの軸になりますね。

長山 私は「家族だったら」と考えています。ある程度自分の方針を固めてから患者さんとすり合わせをするようにしています。自分が迷っている状態で提案すると、かえって混乱させてしまうこともあるので。

西野 僕も二人と同じで、「自分だったらどうするか」という視点に加えて、「患者さんが本当に望んでいることは何か」を丁寧に聞くようにしています。例えば、潰瘍性大腸炎では治療の選択肢がとても多くて、患者さん自身も

迷ってしまうことがあるんですね。だからこそ、対話を大切に、「この先どうなりたいか」を共有するようにしています。

長山 潰瘍性大腸炎は薬も多いし、選択が本当に大変そうですね。

窪田 僕の領域はある程度「こうならこう」って決まるところが多いので、そういう柔軟な判断が求められるところはすごいと思います。

今後の課題や目標は？

窪田 少しずつ上の立場になってきているので、しっかり教育ができる医師になりたいですね。

西野 僕も教育と、あとは学会発表や論文など、アウトプットの部分をもっと頑張りたいと思っています。消化器病センターの先生方がしっかりと実績を出されているので、見習わなければと感じています。

長山 私は今肝臓領域に携わっているんですが、今後どこを専門にするかはまだ悩んでいます。まずは全体をしっかりと把握して、そのうえで「ここを任せ」と言える領域を見つけたいですね。それと、佐々木先生のようにどんな状況でも冷静に指導できる存在を目指したいと思っています。



後輩を指導する際に意識していることは？

長山 「怒らないこと」を一番意識しています。質問しづらい雰囲気にならないようにしたいなと思っていて。あとは任せる範囲をはっきりさせるようにしています。「ここまではお願いするけど、ここからは私がやります」という感じで。そのうえで振り返りのときには、必ず一つは「ここは良かったね」と伝えるようにしています。

西野 自分たちがそうしてもらってきたので、今は自分が同じように後輩に返してあげたいです。内視鏡などは、言葉にしづらい感覚的な部分も多いので、なるべく理屈をつけて言葉で説明するようにしています。もちろん実際にやってみないとわからないこともありますが、何か一つでもきっかけになるような言葉を伝えられたらと思っています。

窪田 手技を教えるって、本当に難しいですね。教科書には載ってるけど、それだけでは伝わらないことが多い。僕自身は、感覚的なことと理論的な説明のバランスを大切にしています。それと、なるべく「なんでそうなるのか」を自分で考えてもらえるようにリードしたいなと。一方に答えを言うよりも、自分で考えてもらうほうが絶対に定着すると思うので。この人にはどれくらいまで言えば自分で気づけるかな、っていうのを探りながら教えるようにしています。もちろん、うまくいかないことも多いんですけど……。でも、教えるって、改めて考えると自分自身の勉強にもなりますよね。

西野 結局、やってみないとわからないことのほうが多いですね。だからこそ、その最初の一步になれるような声かけを意識しています。

小泉先生はどんな存在ですか？

窪田 小泉先生がいてくださるだけで、安心して診療に集中できる感じがします。判断が的確で迅速で、医師としての姿勢や言葉遣い、患者さんとの向き合い方など、すべてにおいて尊敬しています。

長山 小泉先生がその場においてくださるだけで、自然とチームに安心感と一体感が生まれるように感じます。豊富な経験に基づいた落ち着いた、周囲への細やかな配慮にいつも学ばせていただいています。そうした先生と日々一緒にできるのは、本当にありがたいことだと思っています。

西野 消化器病センター全体の空気を自然に整えてくださるような存在で、いつも落ち着いて冷静な判断をしてくださいます。私にとっては、医師としても、一人の人としても、ロールモデルのような方です。

窪田 憧れの存在というか、ああいうふうになれたらいいなって思います。

長山 小泉先生に限らずですけど、消化器病センターの先生方って本当に尊敬できる方ばかりですね。



西野 尊敬できる先生を一人に絞るのが難しいんですよ。先生方それぞれに素晴らしいところがあって、「こういうところを見習わなきゃ」と思うことがばりです。

窪田 カンファレンスでの議論ひとつとっても、考えの深さや視点の広さに驚かされますよね。そういう場は日常的にいられることが、本当に恵まれてるなって思います。

長山 私は佐々木先生に憧れています。どんな状況でも動揺せずに、頭の中では常に冷静に考えて判断されていて。さらに、終わったあとには必ずフィードバックをくださる。教わるたびに勉強になることばかりで、「私もああなりたい」と思わせてくれる先生です。

今回の対談メンバーは上の先生方からの推薦で選ばれたんですよね。それぞれ、どんなキャラクターだと思いますか？

窪田 一言で言ったら…西野先生は「熱い」ですね。すごく良い意味で。どこまでも追及する姿勢だったり、患者さんに対する思いだったり、すべてにおいて「熱い」と感じます。

長山 診療のときもいつも丁寧に、じっくり時間をかけていらっしゃるという印象があります。

窪田 僕が患者さんだったら、西野先生に外来をお願いしたいです。

西野 長山先生は、四字熟語で言うと「明朗快活」ですね。いつも明るくて、裏表がなく、言うべきことはきちんと言います。そして、きびきびと動いている。僕なんかは感情の起伏が激しいというか、浮き沈みもあるタイプなんですけど(笑)。長山先生はいつも冷静で、明るくふるまってる。真面目で、動機が配ってくれる。真面目で動機でもあって、「そういう考え方もあるんだ」と気づかされることも多いです。後輩にはありますが、学ぶことがたくさんあって、困ったときにそばにいてくれると安心できる存在です。

長山 うれしいです……！窪田先生は、誰からも好かれる愛されキャラですね。場の空気をやわらかくしてくれるし、すごく周囲に気を配ってくれる。真面目で動機でもあって、「そういう考え方もあるんだ」と気づかされることも多いです。後輩にはありますが、学ぶことがたくさんあって、困ったときにそばにいてくれると安心できる存在です。

西野 六角形のメーターをつけるとしたら、全部4以上上っているようなイメージ。全部合格点。僕なんかウニみたいなババラになっちゃうと思うんですけど(笑)

一同 (笑)

西野 改めて3人でこうして対談してみると、最初はちょっと照れくささもありましたけど(笑)、お互いの考えをじっくり聞けたり、自分自身も改めていろいろ考えるきっかけになって、良かったです。

長山 そうですね。私たち自身も学びの途中ですし、チームとしてもっと良い医療を提供できるように頑張りたいです。地域の皆さんに「ここに来てよかった」と思ってもらえるような診療をしていきたいですね。

窪田 はい、本当に。今はまだ「育ててもらっている」立場かもしれませんが、これからは自分たちが「育ていく」側として、後輩にも患者さんにも誠実でありたいと思います。

西野 この病院で一緒に働ける仲間がいるって、やっぱり心強いんですよね。これからもチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

長山 そうですね。引き続き、応援していただけたらうれしいです。

窪田 地域の皆さんにとって、もっと身近で信頼される診療科を目指していきたいですね！



Q、
便秘のときヨーグルト
を食べたら効くって本当？

はい、効く人にはしっかりと効きます。ただし、すぐに効果が出るわけではなく、腸内環境が整うまでには数日〜数週間かかることも。毎日同じ時間に、継続して食べるのがポイントです。合う菌種は人それぞれなので、自分に合ったヨーグルトを探すのも楽しいかも！

Q、
食後すぐに横になるのは
胃に悪いって本当？

食後すぐに横になると、胃酸が食道に逆流しやすくなって胸やけの原因になることがあります。とくに逆流性食道炎の方は注意。できれば食後30分〜1時間は座って過ごすのがおすすめです。

Q、
コーヒーを飲むとすぐ
お腹がゆるくなるのは病気？

あるあるですね。
実はカフェインやコーヒーに含まれる成分が腸の動きを活発にするんです。体質的に反応が強い人は、すぐトイレに行きたくなることも。悪いことではありませんが、日常生活に支障があるなら、量を減らしたり、ミルクを加えてみるのも手です。



病気のギモン、
専門医がお答えします！

Q & A

普段ギモンに感じるあれこれ。
消化器病専門医の
小泉先生にお答えいただきました！



消化器内科編

Q、
内視鏡でがんの治療
もできるんですか？

はい、条件が合えば早期のがん・大腸がんは内視鏡で切除（ESDなど）することが可能です。これは内視鏡で病変の周囲を丁寧に剥がしながら取り除く方法で、お腹を切らずに済む分、回復が早いのが大きなメリット。ただし、進行具合や深さによっては外科手術が必要になることもあるので、詳しく検査したうえで判断します。

Q、
ピロリ菌って
放っておいたらどうなる？

ピロリ菌は、長い間胃の中に住みついて、慢性胃炎や胃潰瘍の原因になることがあります。さらに、胃がんのリスクを高めることも分かっています。でも、検査で見つければ除菌治療が可能。1週間ほど薬を飲むだけで退治できますよ。

Q、
内視鏡検査って、やっぱり苦しい？

昔は「つらい検査」のイメージが強かったですが、今はだいぶ変わりましたよ。鎮静剤（うつとろ）する薬を使えば、検査中の記憶がないという方も多いです。とはいえ不安なこともあると思うので、検査前に遠慮なくご相談ください。「なるべく楽に」を一緒に考えます！

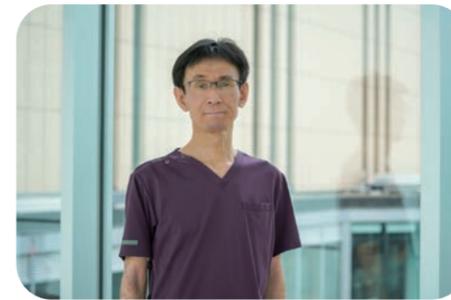
NEWS

国内初！
最新ロボット「ダビンチ 5」で胃がん手術

湘南鎌倉総合病院では、2025年7月22日に最新の手術支援ロボット「ダビンチ 5」による第一例目のロボット支援下手術を行いました。今回の症例は胃がんに対する手術であり、ダビンチ 5による胃がん手術は国内初となります。ダビンチ 5は、従来機と比べて操作性や視野の鮮明さが大幅に向上しており、術者の繊細な動きをより正確に再現することが可能です。第一例目の手術も、安全に、かつ安定した環境下で無事に終了しました。今後も当院では、最先端の技術を積極的に導入し、患者さんにとって安心で質の高い医療を提供してまいります。



ダビンチ 5 を使用した国内初となる胃がん手術の様子



執刀した上部消化管外科部長・ロボット手術センター長
細田 桂医師

プレスリリース

ダビンチ 5
導入について



国内初！
胃がん手術の
施行について



ちがうのどーこだ？

答えは
裏表紙をチェック >>>

全部で5つまちがいがあるよ。どこがちがうか、探してみよう！

